

## アジア太平洋地域の労働力と人口移動国際シンポジウム参加報告

93年4月1～3日、「アジア太平洋地域の労働力と人口移動」の国際シンポジウムがハワイにおいて開催され、若林敬子が出席・報告した。

主催は、東海大学社会科学研究所、会場は東海大学パシフィックセンターであった。参加者は、日本、中国、香港、ブラジル、ペルー、フィリッピン、タイ、ハワイの8カ国（地域）、13人。オブザーバーとして、毎日新聞社人口問題調査会 尾崎美千生も参加した。

分析のフレームワーク、中国、南アメリカ、アジア太平洋の4セクション、計11報告があった。

中国人民大学人口研究所の鄔滄萍は「中国経済改革後の労働力移動」、香港の Trini Wing-Yue Leung は「珠江デルタ地域（中国・香港）における労働力移動」、若林敬子は「中国における近年の都市・農村間人口移動」を各々発表した。最近の戸籍制度、都市化、人口流動・盲流をめぐる中国特有の大課題が提出され、日本への影響も含めて議論された。

東海大学・河上民雄は、「アジア太平洋地域、とりわけ南アメリカへの日本人移民史とその影響」と題し、1908年カサド丸以降の移民史概略と近年の外国人流入問題について報告した。

これと関連し、サンパウロ大学・二宮正人による「ブラジルにおける日系移民85年間と近年の“出稼ぎ”現象」の押し出し側の発表は興味深かった。二宮は日本政府の協力で昨年サンパウロに設立された「国外就労者情報援護センター」理事長も兼任。1988年頃から本格的に始まった日系人の出稼ぎ現象は、ブラジルからの青壮年の大量流出をもたらし、これが原因となって日系社会は空洞化が進み、日系社会に大きな障害をもたらしているとの調査報告を行った。

またハワイ大学東西センター・趙利済の総括的整理スピーチも、いま国際人口移動のシンポジウム開催の意義を新たにかみしめる内容であった。

なお会議に前後して、B. P. ビショップ博物館、ハワイ移民資料保存館、ハワイ報知社の円福ホール、日系婦人協会代表の三保文江らの交流により、1868年（明治元年）最初の日本人移民団、男子142人、女子6人の「元年者」について等、日系移民史への知見を深めた。また、在ホノルル日本国総領事館・法眼健作により、ハワイで1年間に約2,000件のパスポート盗難が発生していることの実事を聞いたのは、近年の不法入国とも無関係とは思えない。

またハワイ島ヒロ市で、Ron Fujiyoshi の案内により、国連先住民年にあたる今夏に集会準備を進めている先住民の集りに出席できたことは、国際人口移動問題を歴史的にも幅広く理解する上で大きな刺激を与えてくれた。

（若林敬子記）